

④「奈良県企業の企業文化、企業風土」の調査、紹介

奈良の風土に生まれ成長するユニークな企業を対象に、製造・製作・展示等の現場や様々な形で社会貢献に励む企業のリアルな姿に触れる機会として企業見学会を実施する。

⑤「吉野川源流の水源地の森を守る活動」支援

川上村の自然、歴史文化を体験するバスツアーの実施、源流まつり等への協力を行う。

2022年1月から12月に実施した事業

1. 書の文化の伝承

◎第13回大仏書道大会「書くことは楽しい in 奈良」を開催

実施日 令和4年10月29日（土）～30日（日）

会場 東大寺大仏殿西回廊

10月29日（土）から30日（日）の2日間、東大寺大仏殿西回廊に於いて「第13回大仏書道大会」の書道展を開催しました。

当書道展は、平城遷都1300年を記念して始まって以来毎年開催しており、今年で第13回目を迎えました。単なる教科書的な技術だけではなく、自由な感性、創造性や味わい深さなども加味し、書の可能性を感じさせるような作品に光をあてる稀有な大会として、全国から毎年多数の応募をいただいています。コロナ禍で学校の行事日程の変更や部活動が制限されるなど、作品の募集に大きな影響が出るものと案じられましたが、関係する多くの方々のご協力もあり、全国68の高校・大学から1,463点の応募を頂くことができ、コロナ禍前のレベルに戻りました。

同書道展にさきがけ10月8日には、朝日新聞社奈良総局において森本公誠・東大寺長老（当フォーラム理事・特別顧問）を審査委員長に迎え、高校や大学の書道教員の方々に審査に携わっていただき、7点の特別賞と93点の入賞作品を選定しました。

筆で書く楽しさが伝わってくる作品、若者らしい意欲的で力強い作品など個性を発揮した作品が数多く見られました。また、優れた作品を多数応募された団体に贈られ



審査会（朝日新聞社奈良総局）



展覧会（大仏殿西回廊）

る奨励賞には、兵庫県立芦屋高等学校、大阪府立北野高等学校の2校が選ばれました。今年も受賞作品100点を東大寺大仏殿西回廊に展示し、入選者や学校関係者をはじめ参拝客や観光客の方にも観覧していただき、680名余りの来場を得ました。

30日には3年ぶりに席書会を開催し、東大寺・森本長老のお話しを伺った後、写経と自由題で作品を揮毫。作品は大仏様に奉納しました。

☆特別賞7点の紹介

奈良県知事賞「のんびりのびのび」

山下 花菜さん（新潟県立新津南高等学校）

平仮名ばかりの文に「の」が三つ続きますが、その変化に富んだ「の」や他の平仮名すべてがこの言葉の意味を伝えるに相応しい自由で伸びやかな書きぶりです。さらに仰向きになって伸びをする「猫」の描写も書の線同様にほほ笑ましく生き生きしています。茶掛けに仕立て床にかけると和やかな茶会が始まりそう、そんなのどかで楽しい一幅の作品となりました。

奈良県教育長賞「涓滴岩を穿つ」

西本 有希さん（奈良女子大学）

作者は学部受験の際の悔しさを乗り越えて夢を抱き続けた、そんな四年間の想いの全てをこの作品にぶつけました。その強い意志を表現するために選んだ詩です。そして隷書を学んだことで培った確かな技法が筆墨で自己表現する時の何よりの強みとなりました。「技術優先ではない」と謳っている本展ではありますが、古典を学ぶ本来のねらいはそこにあり、これまで体験したこと、想いも願いも技も総動員して書作に取組み、その時の自分をこのように残しましょう。

奈良市長賞「Passion」

山田 美優さん（富山県立富山商業高等学校）

半身像の「せんとくん」を細い線で左に描いたことで、平凡になりがちな横長の英文に、よりインパクトを与えています。英文の運筆は生き生きとし、特にSの書きぶりはよく筆を使いこなしており、パッション(情熱)に対する思い入れを感じます。「せんとくん」の赤い襷の色を、右の文字の背景として絶妙に配置し連動させたことで左右に自然な広がりにつながりが生まれました。余白を活かした構成で、紙面以上の大きな空間が表現されています。

奈良市教育長賞「止観」

山本 陽さん（兵庫県立小野高等学校）

水を含ませた筆先の一部にのみ墨を付け、一気に「草書」で書いたことで墨の濃淡がうまく美しく表現されました。「止観」という仏教的な言葉を選び、その二字にコントラストを付けた伸びやかな筆の動きは見事で、並々ならぬ意気込みが伝わります。柔らかい毛筆の特性と墨色の妙を存分に生かした作品となりました。墨の産地である奈良への熱い想いも感じられて嬉しいです。

東大寺賞「四法印」

佐藤 珠希さん（大阪市立大学）

おしゃれな作品です。書かれた内容は仏教の根本にある四つの概念「諸行無常、涅槃寂靜、諸法無我、一切皆苦」。これを横書きに左から右へと書くと今時の若者らしい発想です。揚州八怪の一人「金農（号は冬心）」の方形の隷書を「集字」、古典（クラシック）の要素を取り入れながらも、モダンでデザイン性に富んだ完成度の高い作品となりました。淡紅の色彩が重苦しさを救い「切」の最終画が効いており、名前と印が上手い補空表現となっています。

朝日新聞社賞「惺々着」

長谷川 天音さん（新潟県立新津南高等学校）

禅書「無門関」十二則に「主人公よ」と自分に呼びかけ、次に「惺々着（目を覚ましておれよ）」「諾（はい）」と自問自答するユニークなお坊さんの話があります。高校卒業を前にした作者は、この禅語をこれから先の心構えとして捉え、重くなりがちな言葉を明るい色調の下絵に軽やかにしたためました。柔らかい「鳥の毛」の筆を用いることで生まれる粘り強い独特の線質は藏鋒による筆使いです。その筆先で名前も書き、まとまりのある作品となりました。

奈良 21 世紀フォーラム理事長賞「広い世界」

小原 直子さん（兵庫県立伊川谷北高等学校）

審査員一同「界と読めるから不思議ですね」と目が釘付けになりました。長く書を学んだ者にはこのような表現は新鮮です。「世」は直線的で力強く絵画のよう、対する「界」は伝達としての文字性を否定することなく斬新な試みで書かれています。自分の想いを伝えるために、既成の書法に囚われることなく様々な工夫し自分にしかできない表現に挑戦する姿勢は潔く、書の一つの可能性を感じさせる作品となりました。

奈良県知事賞



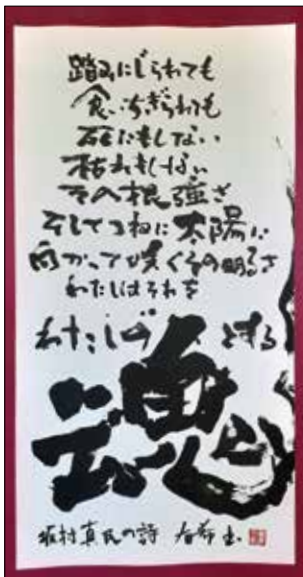
新潟県立新津南高等学校 山下花菜さん

奈良市長賞



富山県立富山商業高等学校 山田美優さん

奈良県教育長賞



奈良女子大学 西本有希さん

奈良 21 世紀フォーラム理事長賞



兵庫県立伊川谷北高等学校 小原直子さん

奈良市教育長賞



兵庫県立小野高等学校 山本陽さん

東大寺賞



大阪市立大学 佐藤珠希さん

朝日新聞社賞



新潟県立新津南高等学校 長谷川天音さん